

非国民の子と呼ばれて

友人 Y さんが私と同年配の両親の悲しい経験を書いています。

＜母の父(彼の祖父)は戦時中、尋常小学校の教師でした。戦争が激しくなり、若者たちが召集令状で次々と戦地に出征して行きます。祖父は教え子たちの前でふと胸の内をもらしてしまいました。「もし君たちも戦地に赴かなければならなくなったらと思うと、先生は不安で——」。この言葉が、子どもの口から親に伝わり、村人や役人に伝わり、大騒ぎになりました。

そして祖父は、反戦主義者、非国民、アカ教師とレッテルを貼られて、二度と教壇に立つことが出来なくなりました。失意と無念の中で祖父母は命を落とし、幼い母と乳飲み子だった叔父は引き離されて、他人の手から手へと渡されました。そして「非国民の子」「罰当たり」と言われていじめられました。これが母の戦争体験です。＞

戦争が起こると、勝つために政府は思想統制を行って国民を戦争に駆り立てていきます。普通の人々が洗脳されて鬼のようになり、命を惜しみ、平和を願う普通の心の声を、非国民呼ばわりしていじめ、排除しようとしています。今振り返ると、戦争中の日本中は狂っていました。恐ろしいことです。

愛国心とは

安倍首相の靖国神社参拝で、韓国・中国との関係が悪化し、米国からも批判されました。国家のために命を捧げた英霊に敬意を表すのは、総理大臣として当然の心得だと言います。でも国民 310 万人ばかりでなく、2000 万人を超えるアジア諸国の人々を殺した戦争を指導遂行した重大責任を問われて処刑された A 級戦犯をも靖国神社が祀って以来、天皇は参拝を中止しています。当然ではないでしょうか。

昭和 16 年 12 月 8 日に天皇の詔勅で大東亜戦争が始まると、小学校 3 年生の私たちも毎月 8 日の大詔奉戴日には、池袋の学校から靖国神社まで行軍参拝して、「私たちも天皇陛下のために命を捧げて戦い、靖国神社に祀られます」との誓いを繰り返しました。天皇は白馬にまたがる軍服姿で全軍を指揮する大元帥総司令官でした。国を愛するとは、天皇のために戦死することでした。

紀元前 660 年に初代神武天皇が即位したといわれる 2 月 11 日が 紀元節として大事な祝日でしたが、明治 22 年の紀元節に発布された帝国憲法は「大日本帝国は、万世一系の天皇これを統治する」という言葉で始まりました。2549 年もの長い年月連続と

続く天皇家を元首に戴く日本は、**世界で比類のない国**だという誇りから、この天皇に命を捧げることが愛国心を表わすことだと教育されました。日本史の授業は、神武天皇から124代の天皇の名前の暗唱から始まりました。

帝国憲法発布の翌年に**教育勅語**が下されました。第一高等中学校では全校教師生徒が整列し、校長が勅語を奉読し、教師が一人一人進み出て、礼拝しました。しかし**内村鑑三**は、礼拝は神に対してのみと、普通の敬礼ですませたところ、不敬だと非難され、退職させられました。勅語まで**神聖視**されるようになったのです。

昭和になりますと、学校の正門と校舎の玄関の中間に**奉安殿**というコンクリートの立派な建物が造られ、**御真影**(天皇・皇后の写真)と**教育勅語**を安置するようになりました。教師も生徒も登下校に際して必ず脱帽して**最敬礼**します。それを怠ると、厳しい懲罰を受けました。大切な式典の時には、教頭先生がモーニング・白手袋で御真影と教育勅語を取り出して講堂に移し、校長先生が御真影に最敬礼をして教育勅語をうやうやしく朗読します。生徒は頭を垂れて拝聴します。これが**教育の核心**でした。

こうして天照大御神の末裔である天皇は、**神として崇められる**ようになり、現人神として崇拝され、**神の国日本**は決して負けない。必ず勝つと信じ、戦争を賛美し、忠君愛国が日本人にとって宗教心のようになったのではないのでしょうか。

しかし私は63才から10年間**シンガポール**で暮らし、戦後50年経っても癒されない戦争の傷跡を知らされました。天皇の軍隊が市民5万人を虐殺していたのです。天皇を祀った**昭南神社**は跡形もありませんでした。韓国・中国を旅してもその傷は今も至るところに遺されています。私たちは**加害責任**をもっと深く自覚すべきです。

建国記念の日

紀元節が**建国記念の日**として復活しました。万世一系の天皇を元首とする国、美しい国への誇りを深めるためでしょうか。Yさんの母は訴えています。

<私が一番恐れるのは、**心の自由**が奪われることです。戦争を起こそうとするとき、**言論・思想・信仰の自由**が邪魔になり、弾圧が起こり、密告などにより隣人・友人・親戚の間ですら疑心暗鬼が生じるのです。私は何としても今与えられている**平和憲法**を守り抜く努力をしたいと思っています。>

ですからキリスト教会は、2月11日を**思想信教の自由を守る日**としてきています。